

巻頭言

第 30 巻記念号に寄せて

学長 金 児 曉 嗣

本学は、2013 年に創立 125 周年を迎えた。1888 年（明治 21 年）、大乘仏教精神に基づく人格の陶冶をその教育理念として創建され、以来、今日まで建学の精神の具現化をめざし、幾多の試練と変遷を経て発展を遂げてきた。

しかしながら、現在、大学を取り巻く環境は、少子高齢化の進行、地域コミュニティの衰退、就業意識の多様化、グローバル化による競争激化など多くの課題に直面し、まことに厳しい状況にある。本学は、今後、地域の教育文化の拠点としての大学機能をさらに活性化し、「相愛大学将来構想」の実現に向かって、全学をあげて弛みなく改革・改善を推進していかねばならない。

このように高等教育機関としての在り方が厳しく問われるなかで、研究教育の特色を世に問う紀要刊行の意義は、大学の顔あるいは大学の遺産として、以前にも増して大きくなっている。近年、本学における「研究論集」への投稿論文は質・量ともに充実し、また本論集を所蔵する図書館は 195 館にのぼる。若手教員には論集への掲載論文をもとにそれをさらに発展させ、学会誌への投稿や学位論文として結実させてほしいと思う。

このたび、鈴木徳男編集委員長をはじめ編集委員の真摯かつ献身的な努力により、ここに記念すべき『相愛大学研究論集』第 30 巻を刊行することができたことをともに喜びたい。とくに今巻では、記念企画として「相愛大学の現在」と題し、在籍する教員の研究・演奏活動が紹介されている。編集委員会の創意工夫に賛辞を呈するとともに、この企画により学部や所属を超えた教員間の緊密な連携協力がなされ、本学ならではの特色ある研究が進展することを切に願っている。

なお、本巻は通巻としては第 65 巻を数える。第 1 巻は 1954 年（昭和 29 年）に創刊されているが、大学の設置形態や学部・学科の改編に応じて、研究論集の呼称や編集委員会にも変遷があり、紆余曲折を経ている。別表はそれらを整理するために、学長室の金子妙美さんの協力を得て作成したものである。研究論集史共有のための一助ともなれば幸いである。

最後に、重ねて編集の労に謝意を表し、第 30 巻記念号刊行の祝辞とする。

研究論集の変遷

1950 相愛女子短期大学設置
1953 家政科・音楽科増設

相愛女子短期大学研究論集
1～4巻
(1954～1957)

1958 相愛女子大学（音楽学部）設置

相愛女子大学相愛女子短期大学研究論集
5～22巻
(1958～1974)

相愛女子大学相愛女子短期大学研究論集.
音楽学部編
23～25巻
(1975～1978)

研究論集. 国文・家政学科編¹
23～25巻
(1975～1978)

相愛女子大学相愛女子短期大学研究論集
26巻
(1978)
創立90周年記念号

相愛女子大学相愛女子短期大学研究論集.
音楽学部編
27～29巻
(1980～1982)

相愛女子大学相愛女子短期大学研究論集.
国文・家政学科編
27～29巻
(1980～1982)

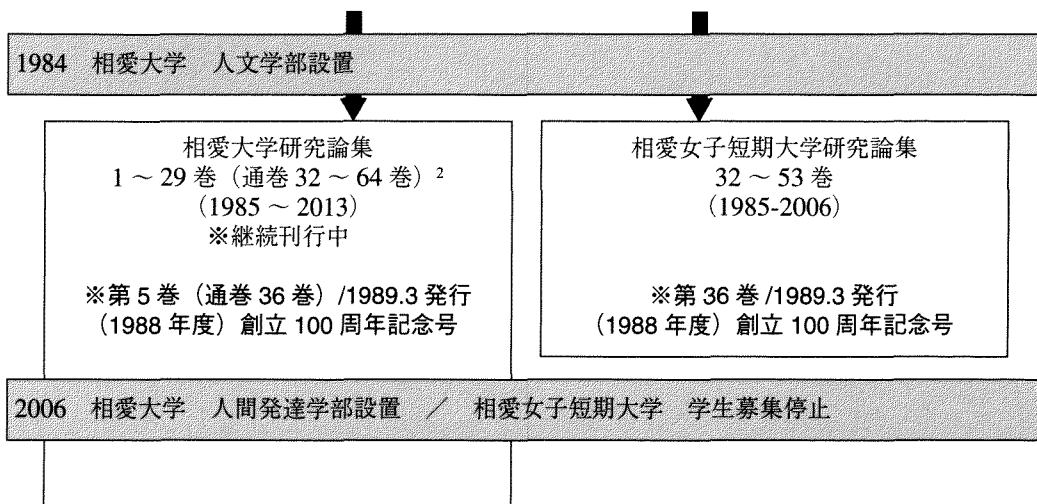
1982 相愛女子大学を相愛大学と校名変更

相愛大学相愛女子短期大学研究論集.
音楽学部編
30～31巻
(1983～1984)

相愛女子短期大学研究論集.
国文・家政学科編
30巻
(1983)

相愛大学相愛女子短期大学研究論集.
国文・家政学科編
31巻
(1984)

(次頁につづく)



¹ 別誌名：相愛女子大学相愛女子短期大学研究論集、国文・家政学科篇

² 第12巻～第15巻は年2号を刊行しているが、各号が通巻としてカウントされている